

前回小委員会（6 / 23）における主な指摘事項とその対応

<全体に関わること>

- 洪水防御計画における計画規模、ハイドログラフ（洪水流量曲線）等の算定根拠について、参考資料として整理しておくべき

→資料 1 - 2

→資料 3 - 1 ~ 3 - 4 基本高水等に関する資料

- 計画高水位の設定の考え方について整理すべき

→資料 1 - 3

- 発電に伴う減水区間の緩和への取り組みについて整理すべき

→資料 5

<個別河川に関わること>

- 河川整備基本方針策定にあたり、各河川毎に以下の観点を十分踏まえ、本文の記述について整理すべき

- ・手取川について、上流の砂防の重要性、土砂災害における情報伝達体制の重要性

- ・櫛田川について、祓川や斎宮に代表される流域の歴史的な背景、文化的な背景の重要性

- ・肱川について、河畔林などの自然環境面、穏やかな流れを利用した舟運やナゲに代表される治水対策などの歴史面の重要性

- ・筑後川について、流域におけるNPO活動や河川の多面的な利用の重要性

→資料 2 - 1 ~ 2 - 4 の各水系の河川整備基本方針（案）